

かな拾いAとB

【目的】注意力（選択性・配分性）の向上

【評価指標】 制限時間内に拾い上げた作業数と正答数，拾い落とし数，拾い誤り数
文章の内容理解（かな拾いBのみ）

【検査道具】評価用紙，鉛筆，ストップウォッチ

【評価形態】全体及び個別，自己記入式

【制限時間】2分

【訓練の進め方】

かな拾いA

課題と鉛筆を被検者に提示．

「次の文章の中から『あ・い・う・え・お』を拾い上げて（見つけて）， を付けて下さい。」

「制限時間は2分ですのでできるだけ早く，見落としがないようにして下さい。」

「それでは始めます」

2分間計測

「2分たちました．鉛筆を置いて下さい。」

かな拾いB

課題と鉛筆を被検者に提示．

「次の文章の中から『あ・い・う・え・お』を拾い上げて（見つけて）， を付けて下さい。」

「制限時間は2分ですのでできるだけ早く，見落としがないようにして下さい。」

「さらに，最後に物語の内容についてもたずねますので，内容も理解しながら行って下さい。」

「それでは始めます」

2分間計測

「2分たちました．鉛筆を置いて下さい。」

「ここに書いてあった内容を（簡単に）説明して下さい。」

かな拾いA

実施日 年 月 日 氏名 _____

制限時間 2分

次の文字群の中から、「あ・い・う・え・お」を拾い上げて、 を付けてください。
(なるべく早く、見落とさないように)

きわぼめ ちいきに うななて いにたざ ほばひも ふわはぴ
しやきち やいこお ちごなき たうんり おみやく うかみの
もたひや ぬさだち いおしく くかしつ てえびや のぶしつ
えしえそ ぬにはめ こよげに めめえの ふつぐふ まらあき
ろひびた すよいた みぢせり わこえし おすひこ さいさを
たじきお とぐぬや ぬかふね おさみえ ゆとぬふ ふんやす
だのせみ ねこねへ ふゆちめ いんさこ さかちや すいうす
くずとえ てばくん あべおた おぼぞむ えふにう くごしお
くみおた さでいま ろひそろ みじめぐ せまひち あごいお
ひにくぢ されでき ぬふよい ぐかにか ぴしちま やじふふ
しあぱき うひれび しまじう ゆつゆこ もにぢち はびこい
ほおすけ ささちあ むやみの くさゆひ どまどや あびさふ
むまみご あけたさ どもたし しえたひ ほみぶゆ すうしお
かあひく すぬどた ゆえほあ しくちけ どまきび よおあえ
へやこま でみきみ ゆわいそ ぼこなま ぱなにお のぶしじ
めねけき ばはかい みしびご くるすな いをんさ ずぴおか
ねげめえ せあすこ ぎけぺせ さえんく いしきき なびまに

作業数		正答数		拾い落とし数		拾い誤り数	
-----	--	-----	--	--------	--	-------	--

かな拾いB

実施日 年 月 日 氏名 _____

制限時間 2分

次の文の中から、「あ・い・う・え・お」を拾い上げて、 を付けてください。
(なるべく速く、見落とさないように、物語文の内容も把握しながら)

むかしあるところに、ひとりぐらしのおばあさんがいて、としをとってびんぼうでしたが、いつもほがらかにくらしていました。ちいさなこやにすんでいて、きんじょのひとのつかいはしりをやっでは、こちらでひとくち、あちらで ひとのみ、おれいにたべさせてもらって、やっとそのひぐらしをたてていましたが、それでもいつもげんきで、ようきで、なにひとつふそくはないというふうでした。

ところがあるばん、おばあさんがいつものようににこにこしながら、いそいそとうちへかえるとちゅう、みちばたのみぞのなかに、くろいおおきなつぼを見つけました。「おや、つぼだね。いれるものさえあればべんりなものさ。わたしにゃなにもないが。だれが、このみぞへおとしていったのかねえ」と、おばあさんはもちぬしがいないかとあたりをみまわしましたが、だれもいません。「おおかたあながあいたんで、すてたんだろう。そんならここに、はなでもいけて、まどにおこう。ちよっくらもっていこうかね」こういっておばあさんは、つぼのふたをとって、なかをのぞきました。

作業数		正答数		拾い落とし数		拾い誤り数	
-----	--	-----	--	--------	--	-------	--

かなひろい練習

【目的】注意力（選択性・配分性）の向上

【検査道具】評価用紙，鉛筆

【評価形態】全体及び個別，自己記入式

【制限時間】特になし

次の文を読みながら「か・き・く・け・こ」すべてに をつけてください。

あるおとこがでかせぎにいき、かねをためてこきょうにかえるとちゅう、じゅうりょうはらっていのちのたすかるはなしをききました。「ひとによってもみはよるな」「たいぼくよりしょうぼくのした」「たんきはそんき」のみつつでした。

とちゅう、ひとだかりをさけてとおったら、がけがくずれて、いきうめからのがれました。

つぎに、らいうのときに、しょうぼくのしたでやすんだおかげで、らくらいのききからのがれました。

わがやにつき、いえのなかにはいろいろとすると、にょうぼとぼうずあたまのかげがうつっており、てっきりうわきとおもい、かまをてにいえにはいると、ぼうさんではなく、あたまをそったははおやでした。おかげで、ははとつまをころさずにすみしました。

次の文を読みながら「は・ひ・ふ・へ・ほ」すべてに をつけてください。

むすこが、ははおやのきにいりのよめをもらいました。はたらきもののよめで、ははこともよろこんでいましたが、よめがふさぎこむようになりました。しゅうとめが、しんぱいしてたずねると、「へをしたくてこまっている」ところだったので、へをさせると、おおきなへをぼかーんとやって、しゅうとめをふきとばしてしまいました。

そこで、よめをかえすことになり、さとへおくとちゅう、なしのみをとろうとしているもめんうりにあい、よめのへでとってやり、おれいにうまさんとうと、にもつみつつをもらいました。

よめをかえすのがおしくなったむすこは、よめをつれもどし、へをたれるへやをつくってへひりよめとしあわせにくらしました。